

EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES

第65回

正倉院展

ごあいさつ

正倉院宝庫には聖武天皇のご遺愛品をはじめ、皇族や貴族たちが東大寺のほとけに献納した品々、東大寺で用いられた仏具類や文書などが納められており、その数は9,000件に及ぶと言われています。正倉院展では宝物の全体像がうかがえるよう、代表的な品を中心に例年70件前後が公開されます。今年も平螺鈿背円鏡や漆金薄絵盤といった著名な品をはじめ、調度品、楽器、伎楽面、遊戯具、仏具、佩飾品、年中行事品、文書など66件が出陳されていますが、特に宝物を守り伝えてきた人々の営みがうかがえる品々が多い点に特徴があります。

聖武天皇のご遺愛品からは、華麗な螺鈿装飾で著名な平螺鈿背円鏡、天皇の身近に置かれた屏風が出陳されています。平螺鈿背円鏡は3面展示されますが、2面は鎌倉時代の盗難で破損しており、うち1面は明治時代に復元修理されています。宝物に携わった人々が、鏡の破片1つさえおろそかにせず、後世に伝えようとしたことがうかがえます。屏風は鳥毛帖成文書屏風、鹿草木夾纈屏風、菴室草木鶴夾纈屏風が出陳されており、奈良時代における宮中の暮らしを偲ぶことができます。その中には断片の状態で古櫃から発見され、修理を経ることで聖武天皇ご遺愛の屏風と確認された宝物も含まれています。

このほか、宝物の点検・曝涼(虫干し)の記録である弘仁二年勘物使解及び正倉院塵芥文書第十八巻、調湿性と密閉性に優れ、宝物の保管に大きな役割を果たした古櫃、宝庫の扉に通されていた正倉院古鑰など、宝物の保管に関わる品も出陳されています。また、江戸時代になると宝物の整理や保存に対する意識が高まりますが、それに関わる品として徳川家康が奉納した慶長櫃、天保年間に裂の整理のために仕立てられた東大寺屏風に貼られていた緑地叢花文錦、樹下鳳凰双羊文白綾も出陳されています。

本展を通して、奈良時代の華やかな文化や暮らしを身近に感じていただき、あわせて宝物を守り伝えてきた先人たちの努力を知っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたりご高配、ご協力を賜りました宮内庁正倉院事務所をはじめ、関係の皆様にあつくお礼を申し上げます。

平成25年10月

奈良国立博物館長 湯山 賢一

正倉院展をご覧になる前に

■正倉院とは？

奈良時代に、国、郡、大寺院などには「正倉」と呼ばれる倉庫が建てられ、穀物や種々の財物、道具類が納めされました。正倉が置かれた区画が「正倉院」です。現在私たちが正倉院と呼んでいる校倉の建物は、東大寺正倉院の正倉ですが、他の役所や寺院の正倉院がすべて長い歴史の中で失われたため、今日では正倉院は固有名詞として使われるようになりました。なお、正倉院は明治時代に東大寺から宮内省に管轄が移り、現在は宮内庁正倉院事務所の管理するところとなっています。

正倉院宝庫は東を正面とした南北に長い建造物です。内部は北倉、中倉、南倉の三部屋に分かれており、北倉と南倉は校倉造、中倉は断面が長方形の板を積み上げて壁とした板倉造です。近年行われた年輪年代測定調査によって、宝庫は741年から750年の間に建立されたと推定されています。

■正倉院宝物とは？

宝庫には約9,000件の宝物が伝わっています。一口に正倉院宝物といっても、各宝物の由緒や伝来は実にさまざまです。宝物のうち中核と言うべき存在は、聖武天皇が亡くなった四十九日目にあたる天平勝宝8歳(756)6月21日に、光明皇后が東大寺大仏に献納した聖武天皇のご遺愛品です。聖武天皇のご遺愛品は北倉に納められています。このほか、

天平勝宝4年(752)4月9日に行われた大仏開眼会において、皇族や貴族たちが大仏に献納した刀子や佩飾品、帯、数珠、ガラス器、銀器などをることができます。これらは主に中倉に納められています。また、大仏開眼会をはじめとする東大寺の法要で用いられた仏具類、楽器、樂舞の面や装束などが伝えられ、これらは主に南倉に保管されています。さらに、宝庫には宮中の年中行事で用いられた道具類のほか、武器・武具、文房具、遊戯具、飲食器、文書なども見られます。

宝物は聖武天皇の時代を中心、奈良時代(8世紀)に製作されたものが大半を占めています。これに加えて、ササン朝ペルシア、中国・唐、朝鮮半島の統一新羅など、アジア諸国からもたらされた品も含まれています。

■正倉院展について

正倉院展は昭和21年(1946)に始まりました。奈良国立博物館での開催は今年で65回目ですが、東京国立博物館で開催された3回を含めれば68回になります。正倉院宝物は現在も勅封によって厳重に管理され、古来行われた曝涼(虫干し)の伝統に則り毎年秋にのみ宝庫が開封されます。正倉院展はこの期間に合わせて行われ、毎年約70件前後の宝物が出陳されます。

2階展覧会場図

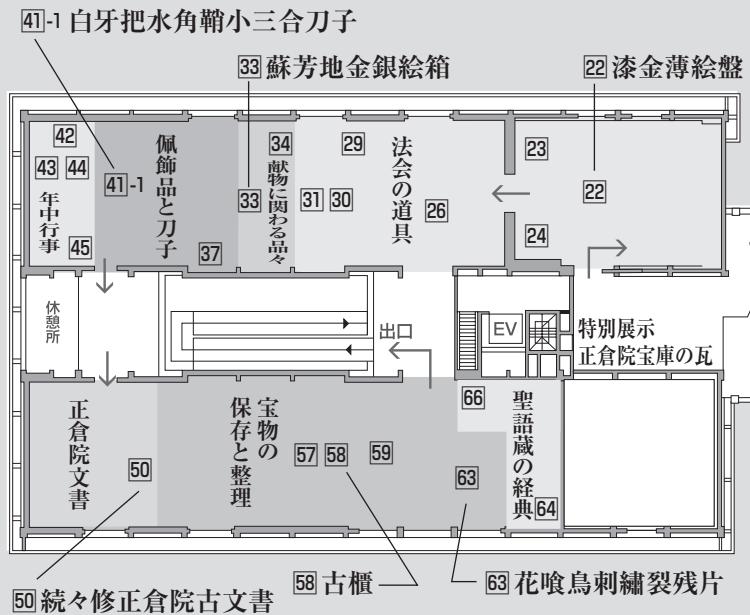


30 鯨鬚金銀絵如意(左)
31 黒柿蘇芳染金銀絵如意箱(右)

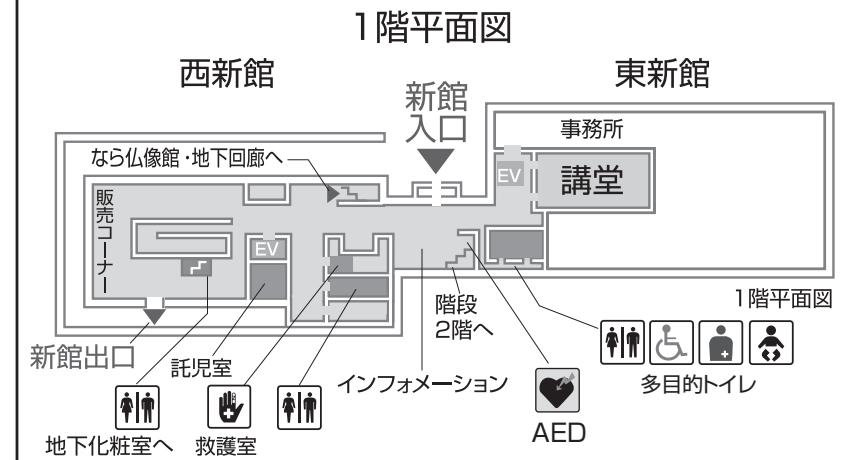


34 彩絵長花形几 附 白綾几脚

EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES 第65回 正倉院展



第三十八帙 第八卷(大神宮飾金物注文ほか)



●ご来館のお客様へ

- 正倉院展は東西新館が会場です。東西新館の順にご覧ください。
- 展示品(宝物)保護のため、会場内は照明を落としてあります。
- 会場内の写真撮影や、懐中電灯、レーザーポインタ及び携帯電話の使用はご遠慮ください。
- 混雑時には、やむなく入場を制限することがありますのでご了承ください。
- 化粧室は東新館1階、西新館1階・地階の他、地下回廊にもございます。
- なら仏像館での名品展「珠玉の仏たち」及び青銅器館での名品展「中国古代青銅器(坂本コレクション)」も、あわせてご覧いただけます。(地下回廊をお通りください。)
- リュックサックや大きな荷物をお持ちの方及びベビーカーの方は館外のコインロッカー又は手荷物預かり所をご利用ください。

正倉院展の図録(目録)について

- 「正倉院展」図録(目録)は西新館1階、地下回廊ミュージアムショップで販売しております。

1. 聖武天皇ご遺愛の品々

聖武天皇の七七忌(四十九日)にあたる天平勝宝8歳(756)6月21日、お後の光明皇后によって天皇のご遺愛品六百数十件が東大寺大仏に献納されました。このコーナーでは、聖武天皇ご遺愛の螺鈿鏡と屏風を展示しています。螺鈿鏡は宝庫の鏡でも特に美しいことで知られていますが、今回はその中でもっとも意匠が優れ、保存状態が良好な平螺鈿背円鏡①が出陳されています。屏風では文字の部分に鳥の毛を貼った鳥毛帖成文書屏風⑤、板締め染めの屏風である鹿草木夾纈屏風⑥、⑦と菴室草木夾纈屏風⑨が出陳されています。

2. 天平の音楽と遊び

奈良時代の寺院では伎楽をはじめ、種々の樂舞が上演されました。宝庫にはキリ製と乾漆製の面があわせて164面伝わっており、奈良時代の華やかな仏教音楽の様子がうかがえます。東大寺で演奏された樂器も数多く伝えられており、とりわけ檜和琴⑫は美しい装飾が施されていることで著名です。また、宝庫には種々の遊戯具が伝わっています。投壺⑯は古代中国に起源を持つ矢を壺に投げ入れる遊びです。漆彈弓⑮は丸玉をはじいて飛ばすための弓で、おそらく遊びの道具であったと思われます。

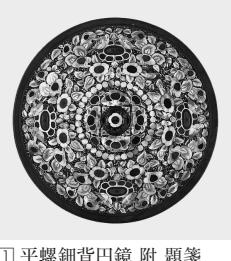
3. 法会の道具

南倉には東大寺で用いられた仏具が数多く伝えられています。最初に香の台である漆金薄絵盤⑯及びその関連品である黒漆塗香印押型盤⑯と黒漆塗平盆⑯のほか、白石火舍⑯などの供養に関わる仏具が展示されます。統けて仏前で供物を載せるのに用いられたと推定される漆彩絵花形皿⑯、僧侶が儀式で手に持った鯨鬚金銀絵如意⑯が、容れ物である黒柿蘇芳染金銀絵如意箱⑯とともに出陳されます。この如意はセミクジラの鬚を用いています。

◆展示の見どころ◆

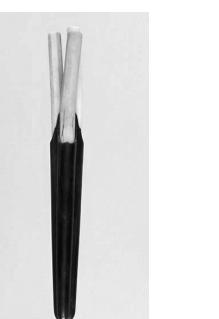
4. 献納に関わる品々

正倉院宝庫には、東大寺の法要において皇族や貴族たちが献納した宝物が数多く伝えられています。献納品は箱に入れたり、小さな机に載せて仏前に進められ、今日それらは献物箱、献物几と呼ばれています。献物箱は彩絵や木画などの装飾を施したり、沈香や白檀などの貴重な材を用いた品が多く、下部には脚をつけているのが一般的です。献物几は低い脚を有し、上面に褥と呼ばれる敷物をのせた木製の小さな机が多く見られます。



7. 正倉院文書

正倉院には写経所で記された事務書類が多く残っています。この用紙には他から転用された文書や反故文書の裏が利用されることが多く、奈良時代の戸籍や、諸国の正税帳(決算報告書)など、全国から奈良の都に上進された文書が紙背(紙の裏)に残されており、奈良時代の社会を知るために重要な史料となっています。また写経で行われていた写経事業について詳細な情報が得られるため、奈良時代の仏教を知るためにも欠かせない史料群です。



5. 佩飾品と刀子

東大寺の法要において、皇族や貴族たちが献納した宝物には、刀子や佩飾品、腰帶などを見ることができます。刀子は紙や木筒などを切るのに用いた小刀ですが、貴人の間では象牙や犀角などの貴重な材を用いたり、様々な工芸技法を用いた刀子を装身具として腰帶から下げることが流行しました。佩飾品は腰帶から下げる飾りのことです。正倉院宝庫には実用品とは認めがたい小さな品があり、このような品は佩飾品と考えられています。佩飾品は古代中国における貴族の習慣で、奈良時代のわが国において貴顕のおしゃれとして流行しました。



6. 年中行事(卯の日の儀式用具)

正倉院宝庫には、宮中の年中行事品も納められています。今回はその中から卯の日の行事に関わる品として、天平宝字2年(758)の銘を持つ三十足几⑭、黄地花文蘆蘆羅⑬及びその残片⑯、銘はありませんがこの儀式に用いられたと推定される椿杖⑯を出陳しています。これは正月の最初の卯の日に天皇や東宮、中宮に対し、邪気を払うための杖を献上した儀式です。卯の日の行事は南北朝時代まで続いているようですが、その後廃れてしまい、ここに展示された品々は失われた行事を知ることができる貴重な遺品です。

8. 宝物の保存と整理

正倉院宝物は1200年以上、建物の中で守られてきました。校倉造の宝庫は天皇の勅封と東大寺の封で閉じられ、各宝物は温度湿度を一定に保つ効果の高い古櫃⑯、⑯に納められました。また、宝物の状態を管理するため、点検・虫干し(曝露)がしばしば行われました。江戸時代になると徳川家康が慶長櫃⑯を寄進するなど、宝物の整理、保存が積極的に進められ、天保7年(1836)には、端切れになった染織品を屏風に貼る作業が行われました。宝物の管理、保存、修復は明治時代以降に本格化し、今日では宮内庁正倉院事務所によって行われています。



9. 聖語蔵の經典

聖語蔵は東大寺勝院にあった經藏で、明治時代に皇室に献上されました。そこには隋や唐で書写された經典、光明皇后が発願した天平12年(740)の一切經(五月一日經)、称徳天皇が書写させた神護景雲2年(768)の一切經(神護景雲2年御願經)などがあります。今回出陳の摩訶僧祇律⑯は、これまで神護景雲2年御願經とされてきましたが、近年の研究で宝亀5年(774)から同7年にかけて書写された「今更一部一切經」の遺品であることが明らかになりました。



⑯ 続々修正倉院古文書
第三十八帙 第八卷(大神宮飾金物注文ほか)



⑯ 花喰鳥刺繡裂片

1階平面図

西新館

東新館

事務所

講堂

1階平面図

期間中の行事等

◆公開講座◆

10月26日(土)

「聖武朝における歌舞の隆盛と和琴」
荻 美津夫氏
(新潟大学人文学部教授)

11月2日(土)

「慶長櫃が語る正倉院の歴史」
佐々田 悠氏
(宮内庁正倉院事務所保存課整理室員)

11月3日(日・祝)

「正倉と正倉院宝物—守る・伝える—」
成瀬 正和氏
(宮内庁正倉院事務所保存課長)

11月9日(土)

「香印坐と天平の彩り」
谷口 耕生(当館学芸部保存修理指導室長)

*各回とも13時30分より15時まで。

(13時より講堂入口で入場券を配布します)
定員194名。当館講堂にて、聴講無料。
(※入場の際には観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください)

◆ボランティア解説◆

正倉院展のみどころ

■期間中毎日開催(1回30分程度)

①10:00~

②11:00~

③12:00~

④13:30~

⑤14:30~

*当館講堂にて、入館者の聴講自由。

ただし、10月26日、11月2日、3日、9日は、公開講座のため、④と⑤は中止になります。
※先着194名。満席になり次第、締切ます。



⑯ 大乘阿毘達磨雜集論 卷第十四

第65回 正倉院展

出陳宝物

奈良国立博物館

| 番号 | 所在倉 | 名 称 | 略 称 | 員数 | 初出陳 |
|------|-----|--|-------------------------|--------------|-----|
| 1 | 北倉 | 平螺鈿背円鏡（へいらでんはいのえんきょう）附 題箋（だいせん） | 螺鈿飾りの鏡 | 1面 | |
| 2 | 北倉 | 平螺鈿背円鏡（へいらでんはいのえんきょう）附 紺絶帶（ひのあしぎぬのおび） | 螺鈿飾りの鏡 | 1面 | |
| 3 | 北倉 | 平螺鈿背円鏡残欠（へいらでんはいのえんきょうざんけつ） | 螺鈿飾りの鏡の残欠 | 14片 (1面分) | ○ |
| 4 | 北倉 | 漆皮箱（しっぴばこ） | 鏡の箱 | 1合 | |
| 5 | 北倉 | 鳥毛帖成文書屏風（とりげじょうせいぶんしょのびょうふ） | 鳥毛文字の屏風 | 2扇 | |
| 6 | 北倉 | 鹿草木夾纈屏風（しかくさききょううけちのびょうふ） | 板縞め染めの屏風 | 1扇 | |
| 7 | 中倉 | 鹿草木夾纈屏風（しかくさききょううけちのびょうふ） | 板縞め染めの屏風 | 1扇 | |
| 8 | 中倉 | 揩布屏風袋（すりぬののびょうぶぶくろ） | 屏風の袋 | 1口 | |
| 9 | 中倉 | 菴室草木鶴夾纈屏風（あんしつくさきつるきょううけちのびょうふ） | 板縞め染めの屏風 | 1扇 | |
| 10 | 中倉 | 揩布屏風袋（すりぬののびょうぶぶくろ） | 屏風の袋 | 1口 | |
| 11 | 北倉 | 弘仁二年勘物使解（こうにんにねんかんもつしひげ） | 宝物点検の記録 | 1巻 | |
| 12 | 南倉 | 檜和琴（ひのきのわごん）附 琥珀絵（たいまいえ） | やまとごと | 1張 | |
| 13 | 南倉 | 尺八（しゃくはち） | たてぶえ | 1管 | |
| 14 | 南倉 | 横笛（おうてき） | よこぶえ | 1管 | |
| 15 | 南倉 | 笛吹袍（ふえふきのほう） | 楽人の上着 | 1領 | |
| 16 | 南倉 | 伎楽面 醉胡従（ぎがくめん すいこじゅう） | 伎楽の面 | 1面 | |
| 17 | 南倉 | 伎楽面 治道（ぎがくめん ちどう） | 伎楽の面 | 1面 | |
| 18 | 南倉 | 伎楽面 太孤父（ぎがくめん たいこふ） | 伎楽の面 | 1面 | ○ |
| 19 | 中倉 | 投壺（とうこ） | 投げ矢の壺 | 1口 | |
| 20 | 中倉 | 投壺矢（とうこのや） | 投げ矢 | 8隻 | |
| 21 | 中倉 | 漆彈弓（うるしのだんきゅう） | 遊戯用のはじき弓 | 1張 | |
| 22 | 南倉 | 漆金薄絵盤（うるしきんぱくえのはん）附 蓮弁（れんべん） | 香印坐 | 1基 | |
| 23 | 南倉 | 黒漆塗香印押型盤（くろうるしなりこういんのおしがたばん） | 香印の押型 | 1枚 | |
| 24 | 南倉 | 黒漆塗平盆（くろうるしなりひらぼん） | 香印の受け皿 | 1枚 | |
| 25 | 南倉 | 銅蓮弁残欠（どうのれんべんざんけつ） | 銅製の蓮弁 | 1枚 | ○ |
| 26 | 中倉 | 白石火舍（はくせきのかしや） | 大理石の香炉 | 1口 | |
| 27 | 南倉 | 金銅六曲花形坏（こんどうのろっきてきょくはながたはい） | 花形の容器 | 1口 | |
| 28 | 南倉 | 密陀絵盆（みつだえのはん） | 油絵を施した盆 | 1枚 | |
| 29 | 南倉 | 漆彩絵花形皿（うるしざいえのはながたざら）附 旧脚（きゅうきゃく） | 花形の脚付き皿 | 1枚 | |
| 30 | 南倉 | 鯨鬚金銀絵如意（げいしゅきんぎんえのによい） | 鯨の鬚の如意 | 1柄 | |
| 31 | 南倉 | 黒柿蘇芳染金銀絵如意箱（くろがきすおうぞめきんぎんえのによいばこ） | 如意の箱 | 1合 | |
| 32 | 中倉 | 白檀八角箱（びやくだんのはっかくばこ） | 献物箱 | 1合 | |
| 33 | 中倉 | 蘇芳地金銀絵箱（すおうじきんぎんえのはこ） | 献物箱 | 1合 | |
| 34 | 中倉 | 彩絵長花形几（さいえのちょうはながたき）附 白綾几褥（しろあやのきじょく） | 献物用の台 | 1基 | |
| 35 | 南倉 | 夾纈羅几褥（きょううけちらのきじょく） | 献物用の台の上敷き | 1張 | |
| 36 | 中倉 | 雜帶（ざつたい） | 組みものの帯 | 1条 | |
| 37 | 中倉 | 金銀絵小合子（きんぎんえのしようごうす） | 小型のふたもの | 1合 | |
| 38 | 中倉 | 紫檀銀絵小墨斗（さん檀ぎんえのしょうぼくと）附 旧糸車（きゅういとぐるま） | 小型の墨壺 | 1口 | |
| 39 | 中倉 | 斑犀把金銀鞘刀子（はんさいのつかきんぎんのさやのとうす） | 小刀 | 1双 | |
| 40 | 中倉 | 斑犀把紅牙撥鍛鞘刀子（はんさいのつかこうげばちるのさやのとうす） | 小刀 | 1口 | |
| 41-1 | 中倉 | 白牙把水角鞘小三合刀子（はくげのつかすいかくのさやのしようさんごうとうす） | 三本組の小刀 | 1口 | |
| 41-2 | | 白牙把水角鞘小三合刀子 模造（はくげのつかすいかくのさやのしようさんごうとうす もぞう） | | 1口 | |
| 42 | 中倉 | 三十足几（さんじゅっそくき） | 卯日の儀式用の机 | 1基 | |
| 43 | 南倉 | 黃地花文臘纈羅（きじかもんろうけちのら） | 卯日の儀式用の机の覆い | 1帳 | ○ |
| 44 | 南倉 | 黃地花文臘纈羅残片（きじかもんろうけちのらざんぺん） | 卯日の儀式用の机の覆いの残片 | 1片 | |
| 45-1 | 南倉 | 椿杖（つばきのつえ） | 卯日の儀式用の杖 | 1柄 | |
| 45-2 | 南倉 | 椿杖（つばきのつえ） | 卯日の儀式用の杖 | 1柄 | |
| 46 | 中倉 | 正倉院古文書正集（しょうそういんこもんじょせいしゅう）第三十五卷 | 播磨国郡帳、備中国大税負死亡人帳、周防國正税帳 | 1巻 | |
| 47 | 中倉 | 統修正倉院古文書（ぞくしゅううしようそういんこもんじょ）第九卷 | 近江国志何郡古市郷計帳手実 | 1巻 | |
| 48 | 中倉 | 統修正倉院古文書（ぞくしゅううしようそういんこもんじょ）第二十三卷 | 巧清成等月借錢解ほか | 1巻 | |
| 49 | 中倉 | 統修正倉院古文書別集（ぞくしゅううしようそういんこもんじょべっしゅう）第十一卷 | 奉写一切經所解案 | 1巻 | ○ |
| 50 | 中倉 | 統々修正倉院古文書（ぞくぞくしゅううしようそういんこもんじょ）第三十八帙 第八卷 | 大神宮飾金物注文ほか | 1巻 | |
| 51 | 中倉 | 東南院古文書（とうなんいんこもんじょ）第二櫃 第三卷 | 仏像及堂宇修造文書 | 1巻 | ○ |
| 52 | 中倉 | 正倉院塵芥文書（しょうそういんじんかいもんじょ）第十八卷 | 綱封蔵見在納物勘檢注文 | 1巻 | |
| 53 | 南倉 | 正倉院古鑑（しょうそういんのこやく） | 正倉院正倉の錠と鍵 | 1口 | ○ |
| 54 | 南倉 | 鑑匙（やくし） | 鍵 | 1本 | ○ |
| 55 | 南倉 | 飾金具（かざりかなぐ） | | 2枚 | ○ |
| 56 | 南倉 | 扉柄請金具残欠（とびらほぞうけかなぐざんけつ） | 軸を受ける金具の残欠 | 8片 | ○ |
| 57 | 北倉 | 古櫃（こき） | 宝物の収納容器 | 1合 | ○ |
| 58 | 北倉 | 古櫃（こき） | 宝物の収納容器 | 1合 | |
| 59 | 中倉 | 慶長櫃（けいちょうき） | 宝物の収納容器 | 1合 | ○ |
| 60 | 南倉 | 緑地唐草櫻花文錦 他（みどりじからくさたすきかもんのにしき） | 錦の裂の残片など | 1扇 | ○ |
| 61 | 北倉 | 緑地霞花文錦（みどりじあられかもんにしき） | 天蓋の飾り | 1片 | |
| 62 | 北倉 | 樹下鳳凰双羊文白綾（じゅかほううおうそうようもんしろあや） | 樹下鳥獸文様の綾 | 1片 | |
| 63 | 南倉 | 花喰刺繡裂残片（はなくいどりのししゅううぎれざんぺん） | 鳳凰の刺繡の残片 | 1片 | |
| 64 | 聖語蔵 | 大乘阿毘達磨雑集論（だいじょうあびだまぞうしゅうろん）卷第十四 | 唐經 | 1巻 | ○ |
| 65 | 聖語蔵 | 毘邪婆問經（びやしゃもんきょう）卷上 | 光明皇后御願經 | 1巻 | ○ |
| 66 | 聖語蔵 | 摩訶僧祇律（まかそうぎりつ）卷第一 | 今更一部一切經 | 1巻 | ○ |